

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0790200059		
法人名	医療法人社団平成会		
事業所名	グループホーム健康倶楽部家 鶴成館		
所在地	福島県 会津若松市門田町大字飯寺字村東305-6		
自己評価作成日	平成29年12月2日	評価結果市町村受理日	平成30年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成30年1月23日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

日常生活から支援が必要な所を把握、支援しご本人ができることを明確にし家事などの役割作りや趣味活動を行い、お1人おひとりのいきが良くなるよう努めています。日頃、体調管理し必要に応じて看護師と相談し安心して過ごせるよう努めております。  
お客様と職員と一緒に会議を行い、お客様の要望をお聞きし、サービスに反映するよう取り組んでおります。又、お客様の希望を取り入れた季節の行事、外出で季節を感じたり、昔を思い出し楽しく生活できるように計画支援しています。  
月に1度お便りを作成しご家族へ様子をお伝えすることや受診の結果などをその都度報告させて頂き、ご家族の方にも安心して頂くよう努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

1. 理念に沿った運営を確実にするため5年の長期目標、毎年の短期目標、運営方針を定め、事業計画を作成し実行している。
2. 地域との連携強化に取り組み、地域自治会に加入し、事業所行事(祭り、認知症カフェ)に地域住民を招いたり、地域の文化祭に出展したり、地域美化清掃行事を実施している。
3. 法人の研修体系が確立し、職能別、階層別、目的別、テーマ別の研修を実施し、外部の各種研修会に参加させたり、資格取得支援の研修を実施している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を把握し、理念を掲示し職員が把握しながら実践できるよう努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲示し、理念に基づく、5年の長期目標、毎年の短期目標、運営方針を作り、日々のケアで実践し、その見直しもしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩や買い物、行事などでなじみの場所へ外出し交流を図るようにしていく。定期的に地域の方を施設へお呼びし交流を図っている。	地域自治会に加入し、文化祭に出展したり、地域美化清掃を行っている。事業所の行事(祭り、認知症カフェ)を地域回覧板で広報し、住民と交流している。踊り、歌のボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の老人会に参加させて頂き、認知症に関してのお話や認知症を予防する為の体操を行うなど、地域の方々に対して事業所として貢献できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の利用状況の報告や行事の報告、外部評価の報告を行い意見をお聞きしサービスの向上に繋げている。	定期的開催し、利用者の状況や地域広報、行事、行事への地域住民の参加、避難訓練等を話し合いサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員に運営推進会議に出席して頂き、管理者は包括ケア会議に出席し協力関係を築いている。市から依頼された見学等の受け入れをするなど市町村との連携を図っている。	事故、生保受給者の状況、認定変更等の報告をしたり、関係法規の変更に伴う事務の進め方の助言、指導を受ける等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議等で身体拘束の勉強会を行い、理解を深め定期的に振り返りを行っている。また、言葉でのお客様の行動を制限しないよう努めている。 玄関の施錠に関しては安全面を考慮し夜間のみ施錠している。	身体拘束排除のマニュアルにより、研修を行い、声かけ、対応のあり方を会議で確認し、検討している。家族とは早い段階からリスクについて話し合い、情報を共有している。昼間の玄関施錠はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて虐待防止についての勉強会を開催し理解している。関わり方にも問題がないか日々職員間で注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議帯にて成年後見制度について学ぶ機会を持ち理解を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでや契約時は重要事項説明書等、きちんとした説明を心掛け、不安や疑問点はないか尋ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回法人内でお客様アンケートを実施し良い点や改善点を運営に反映するよう努めている。また、月に1度職員とお客様で会議を行い、ご希望やご意見をお聞きし運営に反映するよう努めている。	利用者との会話や家族アンケートにより利用者、家族の運営に関する意見、要望を把握している。備品の取り扱い、修理等の意見を聴き取り運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、事業所会議や日常の職員からの意見を聞きながら運営に反映するように心がけ、問題点があれば改善するようにしている。	法人として、資格取得支援の研修があり、職員の意向調査を行い、年間2回の個別面談をしている。管理者は職員とのコミュニケーションに配慮しており、各種会議で職員の意見、提案を聞き、運営に反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員、業務目標の設定や、日々のケアの中で努力や実績を確認している。労働環境に関しては、希望休や体調面など随時職員と話し合いながら行っている。運営者は定期的に管理者と面談しながら職員の状況を把握するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では1.2年目の対象の研修会や定期的な勉強会で力量向上に努めている。外部では市主催の研修やグループホーム協議会の研修に参加し力量向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、地域包括支援センター主催のケア会議、市の研修会の参加やグループホーム協議会の管理者会議に出席し交流を図り、サービスの質の向上に向け取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は、不安になりがちなので、こまめな声掛けや傾聴を行い、話しやすい環境を作り安心して利用して頂けるよう努めている。必要時はご家族へ連絡し情報を得ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご見学や申込み時の際は、現段階で困っている事や、不安な部分を傾聴し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時にご本人の状況やご家族が抱える悩みをお聞きし、現在必要な支援をアセスメントやカンファレンスで検討しサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事やできる事を職員が仲介に入りながらお客様同士で行って頂いたり、気の合うお客様同士のテーブルを同席し交流を図れるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や病院受診の報告時など近況の報告をご家族にお話しし、事業所で困ったことがあれば御家族に相談している。お便りを月に1度作成し、日々のご様子をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方の面会での交流など、今までのつながりを継続できるように努めている。	理美容は希望により、地域の業者や訪問理美容を使っている。希望の夕食、買い物をしたり、知人が訪問しやすい環境を作ったり、家族との外出、外泊、ドライブ、夕食等があり、これまでの馴染みの関係が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様一人ひとりの状態や相談ごとをお聞きしトラブルが起きないように席の配置に気を配っている。また、どうしても一人で居るような方は職員がそばで対応し孤立させないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方は年賀状を出したり、入院になった方は定期的にお見舞いし、ご家族との連携を図っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや月に1回お客様会議を行い、希望や要望の把握に努め実践している。意思表示が困難な方には表情などをみて把握に努めている。	毎月のお客様会議や日頃の会話、家族から把握した本人の思いや意向を反映し、希望に沿って歩行訓練、散歩、刺し子等の趣味活動や生活上の生き甲斐となる役割等を行うことができるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様これまでの生活歴、環境等を伺い把握に努め、同じくできる事については対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お客様一人ひとりについて細かなことも記録をし、申し送りを行い、全職員で提供できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにてお客様・ご家族の意向を確認しそれを基に現状にあった介護計画書を作成するよう心がけている。	利用者や家族の思い、生活状況、医師等関係者の意見等を踏まえ、より良く暮らすための課題を検討している。毎月その実施状況を見直しながら、3ヶ月毎に介護計画を見直しを行い、状況に変化が生じた場合は迅速に、変化に応じた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化など申し送りをし、職員間で情報共有に努め、カンファレンスなどで見直し介護計画に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様対応の病院受診にご本人の状態やご家族様の希望に応じて同行したり、買い物等の希望があった際は、一緒に出掛けるなどの対応を行い、ニーズにあった支援ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の盆踊りに参加したり、地域の文化祭に参加し、お客様に作品を作成して頂き、いきがいに繋がるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族との希望を聞き、今まで通院されていたかかりつけ医に通院し適切に医療を受けられるよう努めている。	本人、家族が希望するこれまでの医療機関を受診できるよう支援している。通院介助等は、家族と事業所が協力して行っている。受診時の本人の健康状態や受診結果は「情報報告書」にまとめ、口頭や電話で報告し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調管理に気を配り、異常があった際はその都度看護師に報告し受診が必要な場合は状況に応じて対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調不良にて入院されてしまった場合は、病院関係者と連携を図り、面会し状態報告を行い、退院後も当事業所を利用できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化、看取りに関する指針の説明を行い、意向確認書にて確認を行っている。重度化してきた場合は医療関係者と連携し、職員間やご家族とケアの方向性を話し合い安心して利用できるよう努めている。	入居時に重度化・看取り介護の方針内容を説明し、意向確認書を作成している。状況変化時は、家族や事業所及び医療関係者が話し合い、方針を統一し共有を図り支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応やAEDの勉強会を定期的に行い、訓練している。実践につなげられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1回避難訓練を実施し避難誘導の仕方を確認している。災害時の地域との協力体制では、運営推進会議で題材にし協力を頂けるよう話し合いを行っている。	今年度は火災を想定した避難訓練を1回実施し、今後、地震を想定した防災訓練を計画している。運営推進会議のメンバーにも訓練に参加して頂き、終了後意見をもらっている。乾パンや水、ヘルメットや拡声器等、災害に備えた備品等を準備している。	消防署等の指導を仰ぎながら、多様な災害を想定した防災訓練を数多く実施し、利用者が安全に避難できる方法を身につけて欲しい。また、近隣住民との協力体制について、運営推進会議等で協力を呼びかけて欲しい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った、声かけを意識し、尊重した対応を心掛けている。トイレや居室に入る際は声掛けし対応している。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない、それぞれに合ったやさしい声掛けに心掛け、入室時には必ずノックでの対応をしている。また、個人情報保護のため、関係書類は鍵の掛かる書庫で保存している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での訴えや月に1度のお客様会議の中で要望を聞きながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味活動など、ご本人の好きな時間に取り組まれるよう配慮している。居室やホールで過ごす時間はご本人のペースに配慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服はなるべくご本人に選んで頂き、お好きな服を着て頂くよう配慮している。ご自分でできない方は職員が配慮し、更衣・整容を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	料理が出来る方は職員付添いのもと一緒に رفتったり、後片付けを手伝って頂いてる。食事中は食べる事に集中しているが時折お話ししながら召し上がっている。	毎月利用者と会議を開き、食事内容や嗜好を把握し、献立に反映させている。食材の下ごしらえから洗い物まで、職員と利用者が協力し合っている。一緒にテーブルを囲んで食事をしている。また、行事食として誕生会や敬老会、クリスマス会、新年会等、多彩なメニューを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った、食事量を把握し、合わせた食事形態を提供している。食事の量も毎日しっかり観察し食欲が無い時は好きな物を召し上がられるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方には毎食声掛け促し、介助が必要な方には毎食後口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要な方はトイレ誘導し失敗がないよう努めている。	排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるように支援している。また、自尊心や羞恥心に配慮した、さり気ない声掛けで誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	NSに相談しながら薬の調整や牛乳ヨーグルトなどを召し上がって頂き、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯など一人ひとりの希望に合わせてながら、入浴をして頂いている。	一人ひとりの希望に応じ、午前午後に分け入浴支援をしている。入浴を拒否する方には、時間や曜日を変える等して、安心して入浴できるように支援している。また、季節に応じた菖蒲湯やゆず湯等の支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間、寝る時間が多い方は、興味のある活動をお勧めし夜間ぐっすり眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	NSと連携しながら服薬変更時はアセスメントにしっかり記載し情報を共有している。薬の変更時は申し送りし情報共有している。処方箋には目を通し症状変化があった際はNS報告しすぐに対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	植木の手入れ、書道、縫い物、食事の準備や片付けなど、その方に合った役割の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に出掛けたり、外食の希望があれば出掛け、季節ごとの外出も企画し楽しんで頂けるよう支援している。	買い物、外食、事業所周辺への散歩等の支援をしている。また、事業所の行事として、花見や紅葉狩り等名所地に出かけ、季節毎の自然を楽しめるよう支援している。また、希望に応じ家族と外食や外泊、墓参り等の支援もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理できる方は所持して頂いている。希望に沿いながら欲しい物を買えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方は自由に所持して頂き、ご家族などとコミュニケーションを図って頂き、心の安心に繋がっているように思う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こまめに清掃を行い気持ちよく使用できるよう心掛けている。季節のカレンダーを共同作成し掲示することや、習字や写真を掲示し居心地良く過ごせるよう努めている。	温度・湿度管理がなされ、共用空間には季節に応じた飾り付けや、共同作品、行事の写真が飾られている。また、長椅子等を利用者が使いやすいように配置し、思い思いの場所で過ごせるよう配慮されている。感染症予防等から、手すりや洗面台等こまめに清掃を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人のペースに合わせ居室で一人でゆっくりされる時や声掛けしながら仲の良い方と交流が図る様配慮し支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている（グループホームの場合）利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご家族からの手紙や写真を飾るなどお一人おひとりに合った居室になるよう支援している。	寝具やテレビ、家族写真や位牌等、できるだけ使い慣れた物や大切な物を持ち込んでもらうようにしている。ベッドの向きや家具の配置等は、本人や家族で話し合い、生活しやすいようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事の準備や後片付けなどの役割を持って頂きその方のできる力に合った支援をしている。		